

科目名称：	こども特演Ⅱ（大学：幼児と造形表現）	
担当者名：	永坂晃子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などを実践的に学び、幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力を習得する。		
授業の達成目標・到達目標		
幼児の表現の姿やその発達について学び、造形表現の基礎的な知識・技能を習得するとともに幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。		

留学生別科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	建学の精神「遊学の精神の涵養」と設立の理念「金城から地球を歩こう」を基に、基礎知識を修め、地域社会を理解するとともに多様な文化に対応できる幅広い教養が身についている。	
DP(2)	優れた専門知識や技能を修得し、他者と協調・協働し、社会の一員として、それぞれの専門分野において貢献できる実践力を身につけている。	
DP(3)	多様な社会に対応できるよう豊かな人間性を養い、人との関わりの中で自己の考えを的確に表現するとともに、他者の意見を尊重し良好な信頼関係を築いていくことができる。	○
DP(4)	学生一人ひとりが、様々な課題に取り組み解決する学修経験を積み重ねることで、その場の状況に応じた活用力が身についている。	

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
全学DP(1)					0
全学DP(2)					0
全学DP(3)			70	30	100
全学DP(4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》特別支援学校教諭	《経験年数1》2年
	《内容2》保育士	《経験年数2》2年
	《内容3》中学校教諭	《経験年数3》1年
	《内容4》美術造形活動講師	《経験年数4》12年

備考
本科目は大学・学科行事や他の関連科目の進行、次年度の造形表現系科目の内容等を考慮し、より効果的な学びを優先して創造的に展開します。 また、本科目は自らのからだと心の実感を通して「子ども」と「表現」の理論理解に繋げることを意図するため、講義は演習を伴うものとなります。

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
造形表現の基礎的な知識・技能	造形表現の基礎的な知識・技能が十分にある。	造形表現の基礎的な知識・技能がある。	造形表現の基礎的な知識・技能がおおむねある。	造形表現の基礎的な知識・技能がない。
幼児の表現を支えるための感性	幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力が十分にある。	幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力がある。	幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力がおおむねある。	幼児期の表現活動を支援するための知識・技能、表現力がない。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 造形表現とは何か	前期保育・教職関連科目の理解と、授業への興味関心	00分
第2回 幼児の造形表現の発達	指示された物品の準備、授業シートの作成	35分
第3回 身近な自然に触れ、見て、聴いて、感じる	授業シートの作成	15分
第4回 身近な素材の特性に触れ、見て、聴いて、感じる	授業課題のための材料・用具の収集、授業シートの作成	65分
第5回 身の回りのモノによる造形遊び	授業課題のための材料・用具の準備、授業シートの作成	55分
第6回 身近な遊びや生活に心が動いたことをもとに造形で表現する	指示された物品の準備、授業シートの作成	35分
第7回 コミュニケーションとしての造形表現	第7回内容の自主補習	120分
第8回 幼児の造形表現との対話	授業課題のための材料・用具の準備、授業シートの作成	55分
第9回 自閉症児・者の絵画への理解	レポート課題への取り組み	90分
第10回 文化との対話	レポート課題への取り組み	90分
第11回 イメージを造形で表現する	授業課題のための材料・用具の準備、授業シートの作成	55分
第12回 ICTを活用した表現活動	授業課題のための材料・用具の準備、授業シートの作成	55分
第13回 造形表現を「学び」の視点から捉える	レポート課題への取り組み	90分
第14回 幼児期の終わりまでに育んでほしい資質・能力	レポート課題への取り組み	90分
第15回 まとめ	レポート課題への取り組み	120分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。
課題レポートおよび他提出物70% 受講態度30%

課題に対するフィードバック

課題レポートは添削の上、課題ごとに10段階、5段階等の評価を付し、返却する。授業シートなど提出物へのコメント。

教科書・参考書

教科書：「保育をひらく造形表現」槇英子(萌文書林) 該当ページを参照しながら解説する。
参考書：「幼稚園教育要領解説」「幼保連携型こども園教育・保育要領解説」「保育所保育指針解説書」